

**実績報告 別記第2号様式 別紙2の
テーマごとに作成してください。**

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1130412
園名	国本幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

森の下駄箱 DIY ワークショップ

<テーマの設定理由>

・これまでの木育活動で得た知識や興味関心の幅を広げ、檜に触れる喜びを感じる機会を設けた。下駄箱をリニューアルするにあたり、今まで使用した下駄箱に感謝の気持ちを持ち、子どもたちが新たな下駄箱作りに参加し、愛着をもって物を大切に扱おうとする気持ちを育むため。

2. 活動スケジュール

第一回目：2月19日（水） 『森のお話～子どもの質問に答えます～』
第二回目：2月25日（火） 『ペイント体験～刷毛でペンキを塗ろう～』
第三回目：3月7日（金） 『ビス打ち～インパクトドライバーを使ってビスを打ってみよう～』

3. 探究活動の実践

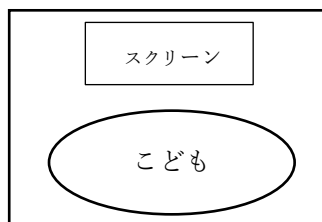
<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

第一回目：2月19日（水） 『森のお話～子どもの質問に答えます～』

準備物：スクリーン、プロジェクター、パソコン

場所：講堂



・お泊まり保育で出掛けた森の写真をスライドで振り返り、暗い森と明るい森の違いについて改めて確認しあった。森から木への興味が広がり、幼稚園で子どもたちが触れている積み木や剣玉、ままごと用品等の木材の種類について疑問が湧き、質問へと繋がった。

- ③「剣玉は何の木でできていますか」→「これはブナの木だね」
- ③「この積み木は何でできていますか」→「これはマツの木だね」
- ③「この机は何でできていますか」→「これは本物の木に似せたコーティングがしてあるよ（本物の木ではないよ）」

身近な素材への興味から質問内容はより深くなっていった。

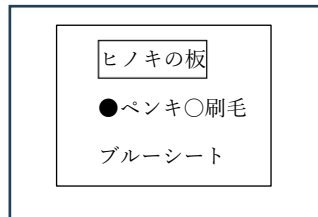
- ③「どうして幼稚園の2階からは足音が聞こえるのに、お家のマンションでは上の階からの足音が聞こえないのはなぜですか」→「良い質問だね。それは音が響きにくいように木と木の間に防音材になるクッションが入っているからだよ」



第二回目：2月25日（火） 『ペイント体験～刷毛でペンキを塗ろう～』

準備物：ヒノキの板、ペンキ、刷毛、ブルーシート、拭き取り用タオル

場所：園庭



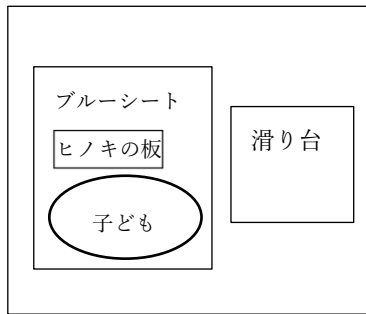
- ・「この木は何だと思う？」→子どもが木の匂いを嗅いで「これはヒノキだ！」と気付く。
- ・「幼稚園の滑り台と同じように皆で今から色を塗ってもらうよ」「やったー！」
- ・刷毛の使い方を教わり、丁寧にペンキで色を塗っていく。その後、タオルで木目に沿って拭き取りを行い、色を馴染ませる。㊟「タオルで拭いたらもっときれいな色になったよ！」
- ・全身でダイナミックにペンキ塗りを楽しんだ。



第三回目：3月7日（金） 『ビス打ち～インパクトドライバーを使ってビスを打ってみよう～』

準備物：ヒノキの板、インパクトドライバー、ビス、ブルーシート

場所：軒下広場



・「今日はこの前みんなが色を塗ってくれたヒノキの板を持ってきたよ」（組み立て用に穴が空いた状態）→「これ、僕たちが塗ったやつだ！」

・ビスを入れる穴を職人さんが空ける様子を見る。子どもたちは一人一本穴に入れる。インパクトドライバーの使い方（まっすぐビスを打つ為に、優しくレバーを握る。慎重に行う。音の違いを聞き分けレバーを外す。）を教わり、一人ずつ実際にビス打ち体験を行った。

・本物の道具に出合い、緊張しながらも期待で胸を膨らませていた。

「ゆっくりスタートしてね」→周りで見ている子どもたち「すごい、すごい！まっすぐ入ったね！」

ビスを打ち終わると緊張がほぐれ「ふうー」と息を吐く子どもたち。「完成まではしばらくかかるけれど、出来上がったらみんなで見て触ってね」「うん！楽しみ！」

・初めて手にした電動ドライバーが気に入り、威力に驚き、「いくらするの？200円？僕も買いたいな」「またやりたいな」と心弾ませて体験を終えた。



〈振り返りによって得た先生の気付き〉

お泊まり保育で奥多摩の森に出掛けることが一つのきっかけとなり、森と市庭さんから多摩産材のヒノキの木片を沢山いただいた。積み木にしたり、匂いを嗅いで遊んだりを楽しんだ後、やすりをかけてキーホルダー作りを行った。お泊まり保育では実際に奥多摩の森で伐採体験を行い、鉋屑プールやツリーハウスで木のぬくもりを感じながら存分に遊ぶことができた。この日の経験から、木に匂いがあることを知り、ヒノキの木の香りが記憶に残った。それ以来、木製のものを見ると自ら匂いを嗅ぎ、木の種類について興味が深まる姿が見られた。これらの経験が自分の将来の夢に繋がる子どもたちの姿もあり、木育体験から得られるプラスの要素は計り知れないと感じた。実体験を通してでないと得られない五感を使った体験は、子どもたちの知的好奇心を広げる活動になったようだ。

保育者自身もまた、子どもたちと一緒に木育体験をすることで子どもたちの思いや気付きをどのように次の活動に繋げたいか、知的好奇心を広げていくためにはどのような働きかけをしていけばよいのか試行錯誤する日々だった。木に触れ、親しみ、友だちや保育者と楽しくわくわくしながら経験をすることで、将来、森林や自然を守る大切さに興味を持つきっかけとなって欲しい。子どもたちが塗った物らしく、まだらで、味のある靴箱が完成した。今後代々大切に使われていくものであり、子どもたちに園の教育方針でもある感謝の心をしっかりと伝えていきたい。

